

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中で、「地域の中で、その人らしく」と言うことを重点に置いた、事業所独自の理念を作りあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフ間で共有し、ケアの統一に繋がるようにと努めている。またケアに対し何かあって悩んだ時は理念に戻るよう心掛けている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域の方が面会や見学に来られた時に見えるよう解りやすい所に掲げている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩やゴミ出しの時に道で会った方には、挨拶を交わしたり、話をしたりしている。また玄関を開放的にし、近隣の方々が入りやすい雰囲気を作っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事ごとには、利用者とともに積極的に参加するようにしている。また、事業所の夏祭りにも地域の方々に参加して頂いた。中学生のボランティア活動として来て頂いている。	

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議時には、支援に関する知識や実践経験等について話しているが、事業所から地域に向けた研修会等は実施していない。	○	今後地域住民に向けて、事業所で培ってきた成果など還元できる機会を作りたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用方法を全職員が理解できるよう促しています。また自己評価に関しても全職員で取り組むようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告とともに参加者からの質問、要望を受け、サービスの向上に繋がるように努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に、市への提出書類など、ご利用者と一緒に出向くように取り組んでいる。また、分からないことがあれば、その都度連絡を取るように努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員に説明し、対応が必要な方に対しての支援に結びつけている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にも積極的に参加し、ミーティング時に話し合い虐待防止の徹底に努めている。		

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書をもとに十分な時間をかけてゆっくりと説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満や苦情を聞き取り、また自分の意志を上手く伝えられない利用者に関しては、態度や行動から察し、利用者本位のケアに努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度「利用者月次報告」として、利用者の日々の暮らしぶり等をご家族に報告している。金銭管理については出納帳にサインをして頂いており、また領収書を送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会来られた時等に、不満や意見を聞き取り、ミーティング時に出された意見について話し合い運営に反映している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時などに定期的に、職員に意見を聞くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしを支援できるように、勤務時間を調節し、柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ利用者にダメージを与えないように、管理者、スタッフ間で話合って、軽減するよう努力している。		

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外、法人内の研修にできるだけ多くの職員が参加できるようにしている。また参加した研修報告をミーティング時に発表するようにしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟しており、グループホーム間で相互実習等を通じて交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティング時に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。職員個々の悩みを把握できる機会もつくっている。また5日程の連続休暇を取り入れている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を取り入れ、職員のやりがいなど、向上心を持てる環境作りに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまで、ご本人の悩みや、不安を十分に聴く機会を作り、受け止めるよう努力している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の求めていること等を聴き、また事業所としての対応について十分に話し合える時間を作るよう努めている。		

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人が必要とされている支援をよく見極め、その時まず必要なサービスを提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、ご家族にサービス利用前に事業所を見学や遊びに来て頂くように努めている。やむ得ず、すぐに利用となった場合にはご本人の馴染みの方に、来て頂くようにし、不安を取り除くように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人と一緒に調理や、洗濯物をたたんだりしながらコミュニケーションを図っている。その中からご本人から教えて頂くことたくさんあり、共に支え合う関係作りを築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方と一緒にご利用者を支援していくために、ご利用者の様子を的確に伝え、情報を共有し密な連絡を取るに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の状態をこまめに伝え、ご家族と疎遠にならないように努めている。また、ご家族と一緒に過ごせるよう、外出を勧めたり、事業所の行事に参加して頂くように働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が入居されるまで、利用されていたデイサービスに遊びに行ったり、毎月の寺参りに出かけたりと、ご本人の馴染みの場所、人と関係が途切れないように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の仲の善し悪しに十分に配慮しながら、一緒にお茶を飲んだり、また一緒に家事仕事をする事で、共に暮らせる支援を築いている。		

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移られた方に対して、こちらから遊びに行くように関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の要望や思いに耳を傾け話し合えるに努めています。意思疎通が困難な方に対しては、様子でそれとなく把握したり、ご家族にから情報を得るように努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用、ご家族や知人が訪問された時に情報を得たりと、ご利用者の生活歴や、生活環境等を把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者の一人ひとりの暮らし方から、生活リズムを理解し、その人の全体像を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の思いや意見を聴き、自分らしく暮らして頂くように、毎月ケース会議を行い、職員間で意見交換し反映するように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご利用者、ご家族の要望を取り入れつつ、毎月のご利用者の支援経過を職員全員で拾い出し、状態が変化した際には、期間終了前に見直し検討を行っている。		

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、毎月一度のケース会議や日々職員間の情報共有を行い、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人、ご家族の状況に応じて通院等の希望に応じ、柔軟な支援を行っている。	○	ご利用者個々の外出支援にもっと応じれるよう努力していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	学生の職場体験や地域の行事への参加など、地域交流への参加への協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業所の場所を借りて、お花見等をさせて頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所としては、今のところ解決困難な状況がないこともあり地域包括支援センターとの関わりがないが、権利擁護を利用されている方がおられるので、社協職員と協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に応じ、定期受診その他状況に応じかかりつけ医と相談しながら受診している。		

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に相談し、適切な指示を受け、必要に応じて、専門医の紹介を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣施設に看護職を配置しており、また深夜でも相談可能な医師に必要な応じた支援を行えるようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、事業所での状況をご家族を通して、または医師と話し合い早く退院できるようアプローチしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い、ご家族や医師と連携を取りながら、事業所が対応し得るご利用者に合わせた最大のケアについてご家族と話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人やご家族、医師と話し合い、希望や応じた支援を出来るよう努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られる場合、アセスメント等の支援状況を手渡し、また情報交換を行い、ご本人のリロケーションダメージの軽減に努めている。		

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとり状況を良く知りプライバシーを損ねないよう、さりげない介護、誘導、声かけを徹底し、また職員間で共有している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側の意見を押し付けず、それぞれの能力に合わせ、ご利用者が決定できるような場面が作れるよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れではあるが、ご本人のペースを尊重し、その人らしい生活を送って頂ける支援に努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの生活習慣に合わせた身だしなみやおしゃれの支援をしている。また支援が必要な方に対しては職員が一緒に考えたり、お手伝いするようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	裏庭に植えた野菜などをご利用者と一緒に採りに行き活用し、献立や調理等を一人ひとりの能力に合わせ準備するよう努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好を把握するように努めており、できる限り一人ひとりが好みの物を日常的に楽しめる支援をしている。	

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに生活状況表を作成し、排泄パターンを把握し、出来るだけオムツを使用しないよう、トイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調不良等、特別なことがない限り、入浴時間、回数を本人の希望にあわせて、ゆっくりと入浴を楽しんで頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活状況表をもとに個々の生活習慣を把握し、それぞれの休息に応じて居室またはソファ等で安心して休んで頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、洗濯物、畑仕事、梅干しづくり等、一人ひとりの生活歴に合わせ、能力を発揮できる場面作りに努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には買い物で支払われ、管理が困難な方に関しては職員が管理し、一人ひとりの能力に合わせて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパー、ホームセンター等に車で日常的に外出されている。また一人ひとりの生活歴に合わせて馴染みの場所に出かけるように努めている。	○	今以上に一人ひとりの希望に応えられるように柔軟に対応していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、地域の夏祭り、回転寿司への外食等、個別又は、皆で出かけ楽しめるよう支援している。	○	今以上に一人ひとりの希望に応えられるように柔軟に対応していきたい。

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、大切な人にいつでも電話をかけられるような雰囲気を作っている。また毎年、ご家族宛に年賀状を出す支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも立ち寄って頂けるような雰囲気作りを心がけている。また訪問時間は決めておらず、居室や、ホール等でご利用者と気兼ねなく過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時等でケアについて振り返り、職員全員が「身体拘束をしないケアの実践」を取り組み、身体拘束行為についての理解もできている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずに、外出されそうな方がおれば、職員がそとついて行き、さりげない声かけ、または一緒について行き安全面に配慮した取り組みを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者が居室、フロアーに所在していることを常に確認し、またプライバシーに配慮しながら、記録等もご利用者と一緒の空間で行うようにしている。夜間については、数時間ごとにご利用者の確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の状況に合わせ、刃物類、薬物等は危険のないところで保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを職員間で共有し、事故が発生した場合には事故報告書を作成し、事故の原因について検討している。またご家族への説明と報告も行っている。		

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修会や講習会に参加し、応急手当や事故発生時の対応について理解している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署を協力を得て、利用者と共に避難訓練を行い、避難経路の確認、消化器の使い方等訓練している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては、その都度家族に伝え詳しく説明し、支援について話し合い、ご本人がのびのびと生活を送って頂くよう支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、又ご利用者様のそれぞれの日誌に、体調の変化を記録、その都度職員同士が連絡、申し送りを行い、早期発見し受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活状況表にて一人ひとりの服薬状況を記録又、通院ノートに用法、用量をその都度記入し、職員全員が共有している。また体調の変化に応じて、ご家族、主治医に相談し対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握し、水分摂取や乳製品を取り入れ便秘予防に取り組んでいる。また下剤を使用されている方に関しては、便の状況に合わせて服薬管理して頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、就寝時に、ご自分で出来る方に対しては声かけ見守りにて促し、また介助の必要な方に対しては介助するなど、その人の能力に合わせて対応している。		

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を一人ひとりチェックし、食事内容に関しては、定期的に特養の管理栄養士の専門的アドバイスを受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての研修会に参加、またマニュアルを作成し、職員全員で共有している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の残りは鮮度や状態を確認し、十分に加熱し、調理器具に関しても消毒し清潔に心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、看板を掲げており、玄関廻りにはプランターに花を植え、入りやすい雰囲気を出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に合わせ食卓には草花を飾り、また季節に応じた飾り付けをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、ソファ、または和室には掘りごたつを設置し、個々にくつろげる場所を工夫し作っている。		

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ、テーブル椅子、仏壇等、ご本人の馴染みの物を使用されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる臭いには消臭剤や換気に努め、温度はエアコンにて状況に応じ調整し、加湿器を使用し加湿にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の状態に合わせ、必要場所に手すりをつけ安心して移動出来るようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にネームプレートを貼ったり、トイレ、浴室等もわかるように場所の表示し、ご利用者の混乱を取り除けよう環境整備に配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の裏庭に家庭菜園を作り、中庭、玄関先には草花を植えている。また、建物周辺にベンチを設置しご利用者がくつろげるスペースも作っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームなごみ(①ユニット)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域との方との交流に力を入れております。事業所からもご利用者と一緒に地域の行事に参加させて頂いたり、地域の方にも事業所の夏祭りにもご協力頂き、また地域の多くの方に参加をして頂くことができました。